

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成25年8月12日

【四半期会計期間】 第100期第1四半期(自平成25年4月1日至平成25年6月30日)

【会社名】 日本トランスシティ株式会社

【英訳名】 Japan Transcity Corporation

【代表者の役職氏名】 取締役社長 小川 謙

【本店の所在の場所】 三重県四日市市千歳町6番地の6

【電話番号】 四日市059(353)5211(代表)

【事務連絡者氏名】 経理部長 福村 隆 宏

【最寄りの連絡場所】 東京都港区高輪三丁目23番17号
品川センタービルディング

【電話番号】 東京03(6409)0382(代表)

【事務連絡者氏名】 専務取締役 古井 直 樹

【縦覧に供する場所】 日本トランスシティ株式会社 中部支社 名古屋支店
(名古屋市中村区名駅南一丁目16番28号
NOF名古屋柳橋ビル)

日本トランスシティ株式会社 関東支社 東京支店
(東京都港区高輪三丁目23番17号
品川センタービルディング)

日本トランスシティ株式会社 関西支社 大阪支店
(大阪市中央区南本町三丁目6番14号 イトウビル)

株式会社名古屋証券取引所
(名古屋市中区栄三丁目8番20号)

株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第99期 第1四半期 連結累計期間	第100期 第1四半期 連結累計期間	第99期
会計期間	自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日	自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日	自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日
売上高 (百万円)	21,246	21,470	84,698
経常利益 (百万円)	1,256	1,139	3,980
四半期(当期)純利益 (百万円)	758	649	1,906
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	593	1,086	2,855
純資産額 (百万円)	40,932	43,684	42,833
総資産額 (百万円)	88,573	92,339	90,861
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	11.79	10.10	29.63
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	44.9	46.0	45.9

(注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社および当社の関係会社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間における、本四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生、または前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在しておりません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、本四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社および連結子会社）が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間における当社グループの業績は、総合物流事業において、倉庫業では、倉庫保管残高ならびに入出庫にかかる取扱量は前年同期に比べ減少しましたが、保管貨物回転率は若干改善しました。また、物流加工業務にかかる取扱量は消費財を中心に増加しました。港湾運送業では、四日市港における海上コンテナの取扱量は前年同期に比べ増加しましたが、輸入原料および完成自動車の取扱量は大幅に減少しました。陸上運送業では、鉄道貨物の取扱量は前年同期に比べ増加しましたが、主力のトラック輸送ならびにバルクコンテナ輸送の取扱量は減少しました。国際複合輸送業では、海上輸送および航空輸送の取扱量は前年同期に比べ微減となりました。このような状況により、総合物流事業全体の売上高は、前年同期比1.3%増の212億2千万円となりました。

その他の事業につきましては、依然として厳しい環境下ではありましたが、業務の効率化や収支改善に努めました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間における連結売上高は、新規貨物の取扱量が増加したことならびに連結子会社が2社増加したことなどにより、前年同期比1.1%増の214億7千万円となりましたが、連結経常利益は、前年度に引き続き営業費用の増加などの影響が大きく、前年同期比9.4%減の11億3千9百万円となり、連結四半期純利益は、前年同期比14.4%減の6億4千9百万円となりました。

セグメント別の業績を示すと、次のとおりであります。

総合物流事業

総合物流事業全体の外部顧客への売上高は、212億2千万円と前年同期に比べ2億7千2百万円（1.3%）の増収、セグメント利益（営業利益）は9億2千9百万円と前年同期に比べ1億8千7百万円（16.8%）の減益となりました。

< 倉庫業 >

当部門では、期中平均保管残高は前年同期比6.0%の減少となり、貨物入出庫に係る貨物取扱量は、前年同期比1.9%減の159万8千トンとなりましたが、貨物回転率は60.3%(前年同期57.8%)と若干改善しました。また、物流加工業務の取扱量は前年同期に比べ増加しました。

以上の結果、当部門の外部顧客への売上高は、前年同期比0.4%増の85億5千2百万円の計上となりました。

< 港湾運送業 >

当部門では、四日市港における海上コンテナの取扱量は前年同期比5.2%増の5万7千本(20フィート換算)となりましたが、輸入原料ならびに完成自動車の取扱量は大幅に減少しました。

以上の結果、当部門の外部顧客への売上高は、前年同期比5.6%減の50億2千8百万円の計上となりました。

< 陸上運送業 >

当部門では、鉄道利用運送の取扱量は前年同期と比べ増加しましたが、主力のトラック運送の取扱量ならびにバルクコンテナ輸送の取扱量は、前年同期に比べ減少し、陸上運送業全体の取扱量は、前年同期比3.1%減の188万8千トンとなりました。

以上の結果、当部門の外部顧客への売上高は、前年同期比1.4%減の41億5千6百万円の計上となりました。

< 国際複合輸送業他 >

当部門では、航空輸送における輸出入の取扱量は前年同期比1.5%減の487トンとなり、海上輸送における輸出入の取扱量は前年同期比1.6%減の41万1千トンとなりましたが、連結子会社が2社増加したことや円安が進んだことに加え、海外現地における貨物取扱量が堅調に推移したことなどにより、売上が増加しました。

以上の結果、当部門の外部顧客への売上高は、前年同期比20.4%増の34億8千1百万円の計上となりました。

その他

ゴルフ場の入場者数は前年同期と比べ増加しましたが、自動車整備業における車検取扱台数ならびに建設業における完成工事件数は減少しました。

以上の結果、当部門の外部顧客への売上高は、2億4千9百万円と前年同期に比べ4千8百万円(16.2%)の減収、セグメント利益(営業利益)は1千8百万円と前年同期に比べ1百万円(6.9%)の減益となりました。

(2) 事業上および財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループの事業上および財務上の対処すべき課題に重要な変更および新たに生じた課題はありません。

(3) 研究開発活動

該当事項はありません。

(4) 従業員数

当第1四半期連結累計期間において、連結会社または提出会社の従業員数に著しい増減はありません。

(5) 生産、受注および販売の実績

当第1四半期連結累計期間において、生産、受注および販売実績の著しい変動はありません。

(6) 主要な設備

当第1四半期連結累計期間において、主要な設備の著しい変動および設備の新設、除却等についての前連結会計年度末における計画の著しい変更はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	240,000,000
計	240,000,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成25年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成25年8月12日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	67,142,417	67,142,417	名古屋証券取引所 (市場第一部) 東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は1,000株 であります。
計	67,142,417	67,142,417	-	-

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成25年6月30日	-	67,142	-	8,428	-	6,544

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の議決権の状況については、株主名簿の記載内容が確認できず、記載することができませんので、直前の基準日である平成25年3月31日現在で記載しております。

【発行済株式】

平成25年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 2,805,000	-	単元株式数は1,000株であります。
完全議決権株式(その他)	普通株式 63,935,000	63,935	単元株式数は1,000株であります。
単元未満株式	普通株式 402,417	-	-
発行済株式総数	67,142,417	-	-
総株主の議決権	-	63,935	-

(注)「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が1,000株含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数1個が含まれております。

【自己株式等】

平成25年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) 日本トランスシティ株式会 社	三重県四日市市千歳町 6番地の6	2,805,000	-	2,805,000	4.18
計	-	2,805,000	-	2,805,000	4.18

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）および第1四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	10,010	9,275
受取手形及び営業未収金	13,832	14,131
たな卸資産	122	126
その他	2,492	2,575
貸倒引当金	16	17
流動資産合計	26,442	26,091
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	14,653	14,520
土地	29,656	30,265
その他(純額)	3,216	4,306
有形固定資産合計	47,526	49,092
無形固定資産	1,254	1,265
投資その他の資産		
投資有価証券	11,273	11,293
その他	4,381	4,624
貸倒引当金	16	27
投資その他の資産合計	15,638	15,890
固定資産合計	64,419	66,247
資産合計	90,861	92,339

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び営業未払金	1 7,373	1 7,337
短期借入金	2,741	2,770
1年内返済予定の長期借入金	4,373	4,226
未払法人税等	372	435
賞与引当金	971	528
その他	2,649	3,921
流動負債合計	18,482	19,219
固定負債		
長期借入金	17,787	17,626
再評価に係る繰延税金負債	4,618	4,618
退職給付引当金	1,470	1,491
役員退職慰労引当金	13	14
長期預り保証金	3,547	3,527
負ののれん	6	4
その他	2,100	2,151
固定負債合計	29,545	29,435
負債合計	48,027	48,654
純資産の部		
株主資本		
資本金	8,428	8,428
資本剰余金	6,732	6,732
利益剰余金	28,160	28,594
自己株式	1,100	1,100
株主資本合計	42,221	42,654
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	929	1,108
土地再評価差額金	1,366	1,366
為替換算調整勘定	95	38
その他の包括利益累計額合計	532	218
少数株主持分	1,144	1,249
純資産合計	42,833	43,684
負債純資産合計	90,861	92,339

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
売上高	21,246	21,470
売上原価	18,795	19,131
売上総利益	2,450	2,338
販売費及び一般管理費	1,306	1,381
営業利益	1,143	956
営業外収益		
受取利息	5	3
受取配当金	64	67
持分法による投資利益	116	113
為替差益	-	58
その他	26	29
営業外収益合計	212	272
営業外費用		
支払利息	81	66
その他	18	24
営業外費用合計	99	90
経常利益	1,256	1,139
特別利益		
固定資産処分益	16	2
負ののれん発生益	0	0
特別利益合計	17	3
特別損失		
固定資産処分損	7	2
投資有価証券評価損	5	0
特別損失合計	13	2
税金等調整前四半期純利益	1,260	1,140
法人税等	481	453
少数株主損益調整前四半期純利益	779	686
少数株主利益	21	37
四半期純利益	758	649

【四半期連結包括利益計算書】
 【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	779	686
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	288	178
為替換算調整勘定	97	213
持分法適用会社に対する持分相当額	5	7
その他の包括利益合計	185	399
四半期包括利益	593	1,086
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	540	979
少数株主に係る四半期包括利益	53	107

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当第1四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)
連結の範囲の重要な変更 当第1四半期連結会計期間より、Trancy Logistics(H.K.)Ltd.およびTrancy Logistics(Shanghai)Co.,Ltd.は重要性が増したため、連結の範囲に含めております。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

当第1四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)
税金費用の計算 税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 期末日満期手形

四半期連結会計期間末日の満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、当第1四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の満期手形が四半期連結会計期間末日の残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
受取手形	56百万円	62百万円
支払手形	0百万円	41百万円

2 保証債務

以下の会社等の金融機関からの借入金について下記金額の債務保証および保証予約を行っております。

(債務保証)

前連結会計年度 (平成25年3月31日)		当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)	
株式会社四日市ミート・センター	50百万円	株式会社四日市ミート・センター	50百万円
Trancy Logistics(Shanghai)Co.,Ltd.	109百万円	従業員(住宅資金)	1百万円
従業員(住宅資金)	1百万円		

(保証予約)

前連結会計年度 (平成25年3月31日)		当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)	
四日市コンテナターミナル株式会社	306百万円	四日市コンテナターミナル株式会社	292百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
減価償却費	583百万円	637百万円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月28日 定時株主総会	普通株式	321	5.00	平成24年3月31日	平成24年6月29日	利益剰余金

2 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年6月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月27日 定時株主総会	普通株式	321	5.00	平成25年3月31日	平成25年6月28日	利益剰余金

2 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)

報告セグメントごとの売上高および利益の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント	その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 3
	総合物流事業				
売上高					
外部顧客への売上高	20,948	298	21,246	-	21,246
セグメント間の内部売上高又は振替高	6	244	251	251	-
計	20,954	542	21,497	251	21,246
セグメント利益	1,116	20	1,136	6	1,143

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産業・建設業・損害保険代理店・自動車整備・ゴルフ場等を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額6百万円は、セグメント間取引消去6百万円によるものであります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第1四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年6月30日)

報告セグメントごとの売上高および利益の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント	その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 3
	総合物流事業				
売上高					
外部顧客への売上高	21,220	249	21,470	-	21,470
セグメント間の内部売上高又は振替高	6	230	237	237	-
計	21,226	480	21,707	237	21,470
セグメント利益	929	18	948	8	956

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産業・建設業・損害保険代理店・自動車整備・ゴルフ場等を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額8百万円は、セグメント間取引消去8百万円によるものであります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額および算定上の基礎は、次のとおりであります。

項目	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額	11円79銭	10円10銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	758	649
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	758	649
普通株式の期中平均株式数(千株)	64,339	64,335

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年 8月 6日

日本トランスシティ株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 木 造 眞 博 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 新 家 徳 子 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている日本トランスシティ株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間(平成25年4月1日から平成25年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成25年4月1日から平成25年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、日本トランスシティ株式会社及び連結子会社の平成25年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれておりません。